

平成 29 年度 国立中央青少年交流の家

# NEAL リーダー養成&ボランティア養成研修

平成 29 年 6 月 17 日 (土) ~6 月 19 日 (月) 2 泊 3 日

## ○目的

青少年の体験活動を支援するボランティアに求められる知識・技能を習得するとともに、ボランティア活動の意欲を高める。(ボランティア養成)

自然体験活動指導者認定制度における養成カリキュラム(概論Ⅰ)に基づいた講習会を実施し、自然体験活動指導者(NEAL リーダー)を養成することで、自然体験活動の推進に寄与する。(NEAL リーダー養成)

## ○参加者

自然体験活動やボランティア活動に興味・関心のある  
高校生、大学生、社会人

計 67 名(内訳:男性 36 名,女性 31 名)



## ○事業の内容

### (1)「青少年教育施設の現状と運営」 当所次長 山下達也

はじめに、本研修の企画運営ボランティアが考えたアイスブレイクゲームを行い心と身体の緊張をほぐした。その後、青少年教育施設の教育機能や役割、運営について当施設の例をあげながら理解を深めた。



### (2)「ボランティア活動の意義」 当所次長 山下達也

ボランティア活動の特質を踏まえつつ、ボランティアが社会の中でどのように変遷し求められてきたのかをデータに基づき学んだ。また、ボランティア活動における心構えや留意点について考えた。



### (3)「青少年教育施設におけるボランティア活動」

#### 当所企画運営ボランティア

実際に様々な場面で活躍している企画運営ボランティアから話を聴いた。ボランティアのイメージについてグループワークを行い、ボランティアの価値観を広げるとともに、今後の活動への意欲を高めた。



### (4)「青少年教育における体験活動」 当所次長 山下達也

体験活動の定義や分類を確認し、青少年教育にとって体験活動はどんな意義があるのかについて学んだ。また、自然体験活動でどんな青少年課題に向き合っていきたいかについて、グループで話し合いをした。



### (5)「ボランティア活動・自然体験活動の技術」

#### 当所企画運営ボランティア

朝食作りは企画運営ボランティアが考え、洗い物が一切出ないクッキング方法であるカートンドックを実施した。「今回の朝食では、何故カートンドックにしたのか」について指導者目線で考え、討議を行った。



## (6) 「自然体験活動の安全管理」

講師：フジ虎ノ門病院看護師 杉浦信志 氏

野外活動の時にはどのような傷病が多いのか、どのように応急処置をすればよいのかについて学んだ。その後、よく発生する傷病を取り上げ、その対応について演習を行い、三角巾法などの技術を身につけた。



## (7) 「自然体験活動の技術」 当所企画指導専門職 柳原雅人

薪をより安全に割るためにはどうすればよいか、湿った薪の場合はどうすれば火が起りやすくなるのかなど、より実践的な野外炊事の技術を身につけた。竹でご飯を炊く方法にも挑戦した。



## (8) 「自然体験活動の指導」 当所企画指導専門職 柳原雅人

指導者としての心構えについて、人前で話す時に注意すべきことや、応対の際に気をつけることを学んだ。声の大きさや目線の配り方、ポイントを絞った指示の出し方など、良い例と悪い例をあげながら理解を深めた。



## (9) 「自然体験活動の特質」

講師：常葉大学教育学部教授 白木賢信 氏

自身の活動はどんな自然体験活動に分類され、どのような野外教育に期待される効果に結びつくのか、関係図を用いながらグループで話し合いをした。各々の活動実践にはどのような意義があったのか、改めて深く考えた。



## (10) 「対象者理解」

講師：至学館大学短期大学部助教 福富 優 氏

対象者理解には“一般的理解”の後に“個別的理解”が必要なことなどを学び、事業の参加者にはどのような特徴があり、それに対する効果的な関わり方について実際のキャンプを想定して討議した。



### 《参加者の感想》

- ・ ワークショップ等で他者の意見を交換し合う機会が多かったので、新しい発見や違う視点で物事を捉えられ大変充実した研修となりました。
- ・ 指導者側の目線を考慮した活動で充実していました。普段はできない活動ができることに新鮮さを感じました。
- ・ 企画運営のボランティアの皆さんが明るく親身に対応してくれて、初対面の人が多かったけれど安心して活動ができました。自分も「こうなりたい」と憧れました。

### 《成果と課題》

- 今年度のNEALリーダー養成&ボランティア養成研修は、企画運営ボランティアの事前研修を行い、時間をかけて企画を行った。ボランティアが主体的に受講者と関わり支援する姿が見られ、交流の家でのボランティア活動についてより具体的に伝えることができた。受講者からは「先輩（企画運営ボランティア）のようになりたい。」という声もあり、今後の活動への参加希望が多数見られた。
- 2つの事業を併せて開催したことにより、受講生から戸惑いの声があった。両研修の受講者のニーズに応えられるよう検討していく。
- 法人ボランティアの登録数及び事業参加の希望に対して、実際に活動できる機会が不足している。教育事業の事前研修やブラッシュアップ研修、ボランティアが自主的に集まる機会を増やすなど、継続的に活動することができる仕組みをより充実させていく必要がある。